

令和5(2023)年度 下都賀地区教育相談連絡会第1回研修会を開催しました

日 時：令和5(2023)年5月12日(金)

会 場：小山市立文化センター小ホール

参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

- ・下都賀地区各市町教育支援センター担当者
- ・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者
- ・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者
- ・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員
- ・下都賀地区小・中・義務教育学校教職員

1 研修内容について

- 目的 (1) 教育相談に関わる今日的な話題や課題について研修を深め、教育相談に関わる担当者の資質の向上を図る。
(2) 不登校や引きこもり傾向のある児童生徒、その保護者への対応やカウンセリングについて学ぶ。
- 内容 講話 「教育相談体制の充実に向けて ～生徒指導提要改訂の趣旨の理解と実践～」
講師：藤平 敦 氏（日本大学文理学部教授）

2 本研修で学んだこと（参加者が記入した〈研修の振り返り〉より）

- 2軸3類4層構造、特に層1への対応の重要性理解できました。改めて、学校経営や学級経営に軸足をおくことが、不登校児童生徒の抑制につながると感じました。
- 初期対応と未然防止が大切ということは分かっていたのですが、十分に理解できていなかったもので、今回の研修を聞くことができてよかったです。また、チーム支援の体制づくりについても参考になりました。「整理」「見える化」「具体的な行動」を取りながら、本校の児童のために実践していきたいと思いました。
- 特に「きらめきカード」の事例④がとても参考になりました。目立たなくても良い子だったり、目立たなくても問題を抱えていることもあったりするので、全ての生徒が過ごしやすいように「チーム」で動いていきたいです。
- 初期対応と未然防止を明確に分けられていないと、日頃を振り返って考えさせられました。養護教諭として、全員に目配りしているつもりでいて、担任の先生からよく名前が挙がる子を中心にみていたと反省しました。一人ではできないこと、カバーできないこともあるので、全教職員で、児童と関わっていききたいと思います。
- 生徒指導提要の改訂にともない、新たな生徒指導の重層的支援構造が示され、その説明を聴講できて大変勉強になりました。層1への対応が難しいと感じていましたが、「担任等に動いてもらうのもよい」「きらめきカードの取組で、見逃しを防いでいくと不登校が減った」などで、組織を動かしていくことがマネジメント力であり、コーディネーターができる役割であるという話がとても参考になりました。
- 「予防」「未然防止（治療的予防、教育的予防）」について、自分の中で整理することができました。「きらめきカード」の実践事例は、市内で活用している校務支援システムを使って同様の

ことができるかと思うので、参考にしたいです。

- 普段関わることのできる児童生徒は、「層4」に位置する子ども達が中心です。子ども達を思い返すと、学校に対して心理的安全性が低い子ども達が多くいるように感じました。日々の関わりにおいて学校復帰や社会的自立を目指すためにも、学校との連携をはかり個に応じた支援を通じて、心理的安全性を感じられる環境を整えたいという思いになりました。
- 新たな生徒指導の重層的支援構造について、具体的な事例を踏まえながら、分かりやすく丁寧に教えていただきありがとうございました。特に心理的安全性の重要性と必要性が大切だということがよく分かりました。特別支援教育が大切にしている視点と児童・生徒指導が大切にしている視点が同じである理由がよく分かりました。
- どうしても問題が起こり始めてからの対応になってしまいがちですが、日頃の教育活動の中で目立つ児童だけでなく、目立たない児童にも目を向けた未然防止の取組が大切だと実感できました。改めて教職員全体で児童を見ていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 生徒指導について詳しく教えていただき、理解ができました。自分の立場で予防（未然防止、初期対応）について整理、見える化、具体的な行動を示して、周囲の先生が仕事に取り組みやすい環境を作っていきたいと思います。
- 生徒指導の重層的支援構造について、層1の重要性やそこへの支援を充実させることの大切さを改めて感じる事ができました。そのためには、誰にでも、分かりやすい言葉、方法で、学業指導を進めていくことが重要であると感じました。そのことで層2～4への支援も充実すると思いました。
- 生徒指導提要をもとに未然防止の重要性を分かりやすく理論づけて説明してくださり、整理できました。また問題が起こりにくい学校のポイントの中では特に「見える化」という所が印象的でした。様々な場面で少しでも各校へ伝えていきたいと思います。ありがとうございました。
- 「教育相談」というと、自分の中では初期対応や事後対応をイメージしていたが、未然防止という観点で考えないと、スルーされてしまう子が出てしまうことに気付かされました。チーム支援体制づくりについても「情報を整理し、見える化し、具体的な行動に落とす」という、分かりやすく納得のいくお話をうかがい、ぜひ自分の学校で生かしていきたいと思いました。
- 普段、声をかけられにくい「手のかからない」「普通の」生徒は、本来「関わりにくい」わけではないと思います。そこに関わろうとしたり、気付こうとしたりする力を教員が付けることが大切だと感じました。何事においても、まずは大人からだと改めて思ったので、本日の「行動の見える化」は同一歩調で指導・支援を行うための手立てとしていきたいです。



(藤平先生による講話)



(研修の様子)